

道路



June ● Vol. 855

Road Engineering & Management Review



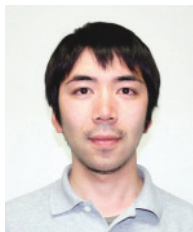
北国街道木ノ芽峠（板取宿；南越前町）



特集 津波・防災・まちづくり

地域いきいき:中国

夢街道ルネサンス：出雲街道新庄宿



池田 洋文 IKEDA Hirohumi

新庄村役場産業建設課商工観光係

新庄村について

新庄村は岡山県の北端に位置する山間にあり、人口約1,000人、面積は67.1km²の小さな村です。

新庄村の北部には中国山地の尾根が聳え、鳥取県日野町、江府町と県境を接しています。標高は役場付近で約470m、冷涼な気候であり、夏期は涼しく、冬期には積雪が1mを超えることもあります。

古くはたたら製鉄の場として栄え美作国の経済を支え、明治時代まで鉄の採掘が行われていました。

後醍醐天皇や後鳥羽上皇が隠岐への流罪となったおりに通ったとも言われる新庄は、江戸時代には出雲往来の宿場町となり、当時の脇本陣の木代邸が今も遺っています。

また、岡山県のブナ林の2/3が村内にあるなど貴重動植物に恵まれる自然豊かな地域です。岡山市へと注ぐ旭川の源流域で、豊富で清らかな水に恵まれています。

これらの自然環境が新庄村の特産である「ヒメノモチ」の生育環境に打って付けであり、ヒメノモチといえは新庄村と言われるほど、多くの方に支持をいただいています。

出雲街道新庄宿

江戸時代、出雲往来の宿場町となった新庄には松江藩の参勤交代時の本陣、脇本陣が置かれました。また、西の箱根と呼ばれるほどの難所であった四十曲峠の手前の宿場町であり、峠を越える者はそのほとんどが新庄宿で足を休めたそうです。

新庄宿の中心であった通りは、現在はがいせん桜通りと呼ばれ、両脇に水路が走り、美しい桜並木が繁っています。新庄村を代表する観光地で、新庄を特徴づける景観を呈しています。4月下旬に開催される「がいせん桜まつり」は県内最後に開かれる桜まつりで、がいせん桜が見ごろを迎える季節には数万人のお客様が訪れます。



新庄村位置図

がいせん桜とその保存活動

がいせん桜とは明治39年に日露戦争の戦勝を記念して植樹された137本のソメイヨシノです。2012年現在で樹齢106年となります。

ソメイヨシノの平均寿命は一般的に60～70年とされていることから、がいせん桜がいかに長寿であるかが分かります。長寿の要因として、新庄村の冷涼な気候と、地区住民の保存活動があげられます。

保存活動は年間を通して行われます。ソメイヨシノは病害虫に弱く、テングス病や幼果菌核病といった病気にかかりやすい樹種とされています。このため、感染した個体の枝を剪定し取り除くことや、消毒を行う必要があります。

また、樹齢を重ね樹勢の衰えつつある個体については、ピートモス充填工法を用い延命治療を施しています。延命治療等は樹木医の在籍される造園業者に委託し専門的な治療を行っています。

ピートモスとは藁などの植物が寒冷期に堆積したものであり、空洞化した樹幹に詰め、表面をビニールテープ、布テープ等で巻きつけ、不定根や樹皮になる組織を発生させるものです。患部回復まで3～4年を要します



雪の中のがいせん桜延命治療

が、治療後20～30年の延命確保が可能と言われてます。なお、平成12年度に行ったがいせん桜での治療が中国地方で初めて行われたピートモス充填工法による治療事例でした。以降、(社)岡山県緑化推進協議会が運営する「緑の募金事業」や新庄村のがいせん桜まつりにて行う「桜募金」等を活用し、現在まで57本の個体の治療が終了しています。

二代木の移植と今後のがいせん桜

延命治療を行い、がいせん桜の美しい姿を維持する取組を行っていますが、いつかは寿命を迎えることも事実です。実際に、枯れてしまい取り除いた個体もあり、現在の本数は134本となっています。

このため、将来にわたりがいせん桜の景観を維持することを目標とし、がいせん桜の後継となるクローン木を接ぎ木により生育し、二代木へと移行できるよう取組を進めています。

両脇を流れる水路

がいせん桜通りには、前出のとおり両脇に水路が通っています。防火対策として造られた水路には、戸島川からの冷たくきれいな水が引き込まれ、かつては、通り沿いの各家庭の水洗い場としても活用されていました。現在は各所に鯉池が設けられ透き通った水に錦鯉がとても映えます。また、水路はその流れるせせらぎが心地よく、日本の音風景100選に選ばれています。



水路と鯉

旧脇本陣木代邸

木代家は出雲往來の宿場として栄えた新庄宿で脇本陣をつとめた家です。屋号を「向馬場屋」と称し、江戸時代末頃に建てられた幕末を代表する建物で、三列六間取りの大規模家屋です。入口の柱には馬つなぎの環、お手洗いには刀掛が今でも残り、当時の姿を偲ばせます。

脇本陣木代邸の奥には「さくら茶屋」が設けられ、山菜や川魚、餅など新庄村で採れた食材をふんだんに用いた新庄村ならではの郷土の味を、歴史あふれる建物の中

で楽しんでいただけます。また、さくら茶屋の2階は小さな資料館で、歴史資料が保存・展示されています。

地域の取り組みとして

出雲街道新庄宿の街並みを守るなど、街づくりを行うことを目的とした「出雲街道新庄宿まちづくりの会」は、新庄宿を魅力ある街にしようと、木代邸の運営をはじめ、鯉池の管理、がいせん桜の手入れ、観光客のガイドなど日々活動されています。



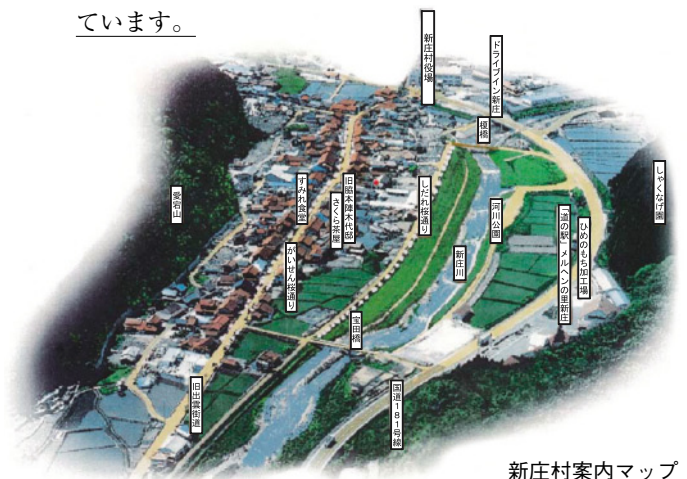
新庄宿まちづくりの会による桜の手入れ作業

おわりに

新庄宿は時代を経てがいせん桜を中心とした観光地へと移り変わりました。春には、多くのお客様ががいせん桜の美しく咲く姿を求め、足を運ばれます。一方その陰には、村民のたゆまぬ努力と新庄宿への愛があります。

私が感じる新庄宿の魅力は四季を通じた色の移ろいです。春は桜色、夏は鮮やかな緑、秋は紅葉に染まる赤、冬は降り積もった雪の白。単純ではないその色彩は一年を通して見るからこそ伝わるものです。観光客の皆様には、桜の季節だけではなく、一年を通して足を運んでもらいたいと思います。そのために私も新庄宿を魅力ある街にすべく業務に励んで行きたいと思います。

※夢街道ルネサンスについてはホームページでも紹介しています。



新庄村案内マップ